

3 新たな産地を築く園芸・畜産振興プロジェクト

本県の基幹部門である園芸作物の競争力強化に向け、オリジナル品目・品種の栽培面積拡大や需要期の生産量拡大に取り組む産地の早期育成を図るため、作目ごと重点品目の種苗供給体制の整備や新たな栽培技術の指導などに取り組み、実需者ニーズに対応した生産力・販売力の高いモデル産地の育成を進めます。

また、本県農業の基礎産業である畜産業の生産基盤の強化を図るため、自給飼料の増産とこだわりのある畜産物の生産拡大を進めます。

【数値目標】

項目	平成22年度	平成29年度 (目標)	設定の考え方
なし「サザンスイート」栽培面積	0ha	50ha	新たな県オリジナル品種の早期産地化を図る
アスパラガス 4～5月出荷量 ※	260t	350t	実需要望の高い4～5月の出荷量を早急に拡大する
トルコギキョウ秋出荷量	108万本	250万本	栽培の難易度・需要ともに高い10～11月の品質・量を確保する
県産自給飼料の生産面積	2,935ha	3,800ha	県育成品種（トウモロコシ、ソルガム）及び飼料米、稲WCSの増産を図る

※東京、名古屋、大阪中央卸売市場入荷量の合計

【取組方策】

(1) 果樹オリジナル品種早期産地化プロジェクト

試験場で育成された有望オリジナル新品種について、大規模実証モデル園を設け、出荷・販売レベルでの評価を得つつ早期産地化を図る。

● 大規模実証モデル園の設置

- 高品質・安定生産のための栽培技術支援
- 一定量を確保した出荷による実需者等の評価把握

● 早期産地化に向けた苗木供給体制の構築

- 関係機関が連携した種苗の早期供給体制の確立

● 拠点産地における生産・販売戦略の構築

- 拠点産地における高品質・安定生産に向けた栽培技術の重点指導
- 品種特性を活かした販売戦略の策定支援

(2) 需要に対応できるアスパラガス産地育成プロジェクト

アスパラガス需要期における本県出荷量が減少する一方で県外出荷量が増加している。定植2年目から収穫が可能な1年株養成苗の供給と施設化の推進により、市場からの期待に応えられる競争力の高い産地の早期育成を進める。

● 1年株養成苗（大苗）供給体制の構築による新たな産地化の推進

- 県下需要量調査に基づく受託育苗体制の仕組みづくり
- 育苗受託組織への良質苗生産の指導
- 大苗利用の長所を活かした新たな担い手・新たな産地の確保・育成

● 施設化の推進による需要期の出荷量拡大

- 4月出荷量拡大のため（半促成作型）の施設化の推進
- 普及拡大に向けた早期高単収モデルほ場の設置
- アスパラガス生産振興プロジェクトチームによる生産管理指導

(3) トルコギキョウ秋出荷産地化プロジェクト

トルコギキョウの秋出荷（10月～11月）は、暖地と冷涼地の端境期となって実需者の引き合いが強く、プライダル需要の高まる時期でもある。当期をターゲットに安定した品質・量を供給できる産地を育成・強化して、個別経営の安定化と作付け規模拡大を図る。

● 適地・適作型誘導による秋のリレー生産と県産シェア拡大

- 低地（標高500m未満）、中間地（同500～800m）、高地（同800m以上）の3タイプに分けた品種・作型の最適化と生産技術の確立・普及
- 冷蔵（冷房）施設や電照、加温装備の導入による生産力の安定化
- 県オリジナル品種の秋出荷作型への活用

(4) 自給飼料増産プロジェクト

良質な自給飼料の増産、利用拡大による畜産生産基盤の強化とそれらの利用に立脚したこだわりのある畜産物の生産拡大を推進する。

● 県下の基幹となるコントラクターの連携強化や自給飼料の増産を推進

- 良質な自給飼料の県内広域流通体制を構築
- 県育成新品種のトウモロコシ、ソルガムの面積拡大
- 稲WCS、飼料用米の増産、給与する家畜の増加

● 自給飼料を活用したこだわりのある畜産物の生産拡大と経営安定

- 飼料用米を給与した豚、鶏卵、肉牛の生産を支援
- 自給飼料利用による生産コストの低減と付加価値を付けたこだわりのある畜産物の有利販売による経営安定
- 肉のうまみ成分であるオレイン酸値を高める飼育技術（牛、豚）への支援

<5年間の行動計画>

項目		H25年	H26年	H27年	H28年	H29年 (目標年)
ナシ	大規模実証モデル園による 評価把握	→				
	重点産地への導入		→			
	早期産地化				→	
アスパラガス	大苗受託育苗生産	→				
	モデル産地への導入		→			
	モデル産地への重点指導		→			
トルコギキョウ	産地タイプ別作型誘導	→				
	生産装備の充実と技術確立	→				
	オリジナル品種の活用				→	
自給飼料	生産・供給体制の整備 広域流通体制の構築	組織化	広域流通体制の構築			
	県育成新品種等の導入	種子生産				
		面積拡大、産地化				
	こだわりのある畜産物生産		→			

【需要に即応した新たな園芸産地の育成】

果物専門店 量販店 生花店
卸売市場 仲卸業者 消費者

情報収集 ↓ 連携

- 果樹オリジナル品種早期産地化プロジェクト
- 需要に対応できるアスパラガス産地育成プロジェクト
- トルコギギョウ秋出荷産地化プロジェクト

園芸畜産課、農業技術課、農業関係試験場、農業改良普及センター
JA 全農長野、JA 長野県営農センター、長野県原種センター等

～実需者ニーズに対応した生産力・販売力の高いモデル産地の育成～

モデル産地の育成

- オリジナル品種
苗木供給体制の構築
- 生産・販売戦略の
構築

- アスパラガス大苗
供給体制の構築
- 需要期出荷量拡大
のための施設化の
推進

- モデル地区設置に
よる技術確立
- 県育成オリジナル
品種の活用促進

拠点産地

拠点産地

拠点産地

実需者

実需者

実需者

県下産地への拡大

産地自らが実需者のニーズを生産に結び付け「産地力」を高める

自信と誇りの持てる信州農畜産物の生産拡大

【自給飼料増産による生産基盤の強化】

